様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	鎌倉女子大学
設置者名	学校法人鎌倉女子大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数					省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	総合教育科目	専門科目	合計		
家政学部	家政保健学科	夜・通信	—	—	6	98	104	13	
	管理栄養学科	夜・通信			6	71	77	13	
児童学部	児童学科	夜・通信		—	8	101	109	13	
	子ども心理学科	夜・通信			6	32	38	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		—	6	112	118	13	
教育メディアクリエーション学環		夜・通信		—	6	31	37	13	

（備考）
教育メディアクリエーション学環は2026年度開設のため、完成年度までの設置計画に基づいて記載。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

鎌倉女子大学ポータルサイト シラバス検索
https://kwup.kamakura-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006
検索キーワード「実務経験」を入力し、「実務経験を活かした授業」の講義一覧を表示させる。

鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「6.大学等の教育課程に関する情報」
＞(1)授業科目、授業内容、授業計画＞大学 実務経験を活かした授業
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/curriculum/index.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	該当なし
（困難である理由）	

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	鎌倉女子大学
設置者名	学校法人鎌倉女子大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「1.基本情報」＞(6)役員・評議員名簿
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/basic_info/index.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社 相談役	2025.6.6 ～ 就任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	管理運営
非常勤	公益財団法人 理事長	2025.6.6 ～ 就任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	管理運営
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鎌倉女子大学
設置者名	学校法人鎌倉女子大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

・授業計画については、各授業科目の「科目ナンバー」「授業時間以外に必要な学習時間の目安」「授業概要」「到達目標」「建学の精神に基づく深い教養と高い専門性に富む学士力の形成への貢献」「内容（授業の各回の授業内容）・方法（講義・実験、演習等)」「準備学習・発展学習」「成績評価（評価方法・割合)」「教科書」「参考書」を記載した『シラバス』を作成している。

・実務経験のある教員による授業科目については、『シラバス』の「実務経験を活かした授業」の欄に、実務経験のある教員がどのような授業を行うかを記載している。

・シラバスに記載する必要がある項目、記載方法、留意事項等について『シラバス作成の手引』に示している。

・『シラバス』の作成過程については、12 月に『シラバス作成の手引』を教員に配付し、作成依頼を行う。2 月末までに各教員は担当授業科目のシラバスを作成する。各教員が作成したシラバスを学科長・教務担当教員が確認し、3 月末に大学のホームページに公表する。

授業計画書の公表方法	鎌倉女子大学ポータルサイト シラバス検索 https://kwup.kamakura-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

・学修成果の評価については、学則第35条に成績評価、第36条に成績評価要件、第37条に単位の授与、第38条に試験について規定し、学生に示している。

・各授業科目の評価方法については、『シラバス』に記載している。

・『シラバス』には、試験、課題提出、実技、成果物提出、発表、実践、グループワーク、受講状況等の評価方法をあらかじめ示している。

・『シラバス』に示した評価方法の複数の要素を用いて、各学生の学修成果を総合的に評価し、単位を与えている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

・成績評価には、GPA制度を取り入れ、客観的な指標を設定している。

・GPAの算出方法は、以下の通りである。

合否	評価	評点	評価の基準	Grade Point
合格	S	100～90点	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	4
	A	89～80点	到達目標を十分に達成できている優れた成績	3
	B	79～70点	到達目標を達成できている成績	2
	C	69～60点	到達目標を最低限達成できている成績	1
	合	合格	段階なし	GPAに算入しない
	認	合格	段階なし	GPAに算入しない
不合格	F	59点以下	到達目標を達成できていない成績	0
	E	成績評価なし	評価なし	0
	否	不合格	評価なし	GPAに算入しない

GPAの算出式（小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを算出する）

$$\text{GPA} = \frac{\text{（履修登録した授業科目のGrade Point} \times \text{単位数）の合計}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

・成績評価とGPAについては、履修規程第12条に成績評価について規定するとともに、大学ホームページ「情報公開」ページに掲載している。

・成績の分布状況については、各学期の成績確定後に、教務部学務課でデータをまとめ、資料（成績一覧表、各学科・各学年のGPA一覧表（GPA順・学籍番号順））を作成している。各学科の学科長・教務担当教員・クラスアドバイザーは、作成された資料を確認することで、成績の分布状況を把握し、学修指導に活かしている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「6.大学等の教育課程に関する情報」＞(2)学修成果の評価、卒業・修了認定の基準 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/curriculum/index.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

・卒業の認定方針については、大学、各学部・学科、学環のディプロマポリシーを策定し、大学ホームページに公表している。

・ディプロマポリシーについては、カリキュラムポリシーとともに、オリエンテーションの際、学生に理解を促し、学生はディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを意識した履修・学修を行っている。

・卒業判定の手順については、卒業学年の成績確定後、まず学科長・学環長・教務担当教員・クラスアドバイザーによって卒業要件充足状況を確認し、学科会議・学環会議において、卒業要件充足者が各学科の学士課程修了及び卒業並びに学位授与を認定できるか審議する。続いて教務委員会、学部長会議、教授会の順で審議し、最終的には教授会の議を経て学長が決定している。

・卒業の認定に関する方針の具体的な内容は次のとおり。

◎大学のディプロマポリシー

鎌倉女子大学は、「教育の理念（感謝と奉仕に生きる人づくり）」「教育の目標（科学的教養の向上と優雅な性情の涵養）」「教育の姿勢（人・物・時を大切に）」「教育の方法（ぞうきんと辞書をもって学ぶ）」「教育の体系（知育・徳育・体育の調和）」によって構成される「建学の精神」に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

１．本学固有の教育理念であると同時に、古今にわたる普遍の教育理念である「感謝と奉仕に生きる」を常に目途としながら、本学固有の教育目標である「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、自らの職能・職域を通じて健全な社会の創造に貢献し、自らの未来を力強く切り拓くため、所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

２．大学共通の「建学の精神」を含む『総合教育科目』及び学部・学科、学環の設置目的に照らして編成された『専門教育科目』を併せて修得していること。

◎家政学部のディプロマポリシー

家政学部は、「建学の精神」及び本学部の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

１．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、健全な社会と人間の健康で文化的・経済的な生活と生存を総合的にマネジメントできる理論と実践力を培い、生活世界の基層を成す衣・食・住・教育・経済・経営等の多様な分野に貢献できること。

２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

◎家政保健学科のディプロマポリシー

家政保健学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位を修得した学修者に、「学士（家政学）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・人間生活・健康と直接関わる家政学及び保健学の専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・人間生活・健康に関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT）を用いて、人間生活・健康に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・横断的かつ多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における人間生活・健康に関する課題を発見し、実践的な解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、人間生活・健康に関わる専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・家政学及び保健学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・人間生活・健康に関わる専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、人間生活の質的向上を目指し、個人と社会のウェルビーイングを実現できる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・生活世界の多様な営みを踏まえながら、ウェルビーイングの向上に資する新たな価値や在り方を追究する力を身につけている。

・個人や組織が直面する諸課題に対して、創造的かつ実践的な解決策を導き出す力を身につけている。

・企業や地域社会等において、または中学校・高等学校の教員（家庭・保健）、小学校・中学校・高等学校の養護教諭として活躍できる資質・能力を身につけている。

◎管理栄養学科のディプロマポリシー

管理栄養学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（栄養学）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・食・栄養・健康に関する専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・食・栄養・健康に関する数値やデータを解析し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT)を用いて、食・栄養・健康に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・科学的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における食・栄養・健康に関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、健康管理や栄養教育の専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・食・栄養・健康の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・健康管理や栄養教育の専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、人間の生命と尊厳を尊重し、国民のニーズに対応した健康生活の維持増進に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・健康管理、給食管理等、総合的な栄養マネジメントができる力を身につけている。

・傷病者及び健常者の栄養評価・判定に基づく適切な指導を行うことができるとともに、施設における給食及び栄養管理の知識・技能を活用できる力を身につけている。

・医療・福祉・教育等の分野で管理栄養士として活躍できる資質・能力を身につけている。

◎児童学部のディプロマポリシー

児童学部は、「建学の精神」及び本学部の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

１.「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、自然的・社会的・文化的環境の中に成立する児童の生活・発達・教育・心理・活動等を学問的に理解し、児童の知情意にわたる調和的な育成を支援できること。

２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

◎児童学科のディプロマポリシー

児童学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（児童学)」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・児童の全体像及び教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化等、児童学の専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・児童の教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化に関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT）を用いて、児童の教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における児童を取り巻く課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、児童に関わる専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・児童学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・児童に関わる専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持増進に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・児童学全般に関わる専門的知見を児童の育成支援に統合的に活用できる力を身につけている。

・急速に変化する現代社会の中で、次世代を育成していく実践的スキルを身につけている。

・保育士、幼稚園・小学校の教員として、または児童関連企業において活躍できる資質・能力を身につけている。

◎子ども心理学科のディプロマポリシー

子ども心理学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（心理学)」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・子どもの心・行動・成長及び心理学に関する専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・心理学的研究法により数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT)を用いて、子どもの心・行動・成長に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・心理学的な視点から、ものごとを論理的、分析的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における子どもの心に関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、子どもの心の専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・子どもの心・行動・成長及び心理学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・子どもの心の専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・心理学に関する基礎的理論と研究方法を応用して研究を推進できる力とともに、心理学的援助を実践できる力を身につけている。

・乳幼児期から青年期までの子どもの発達を支援できる知識と援助技法を身につけている。

・教育・健康福祉・医療関連分野及び関連企業等において子どもの心の専門家として活躍できる資質・能力を身につけている。

◎教育学部のディプロマポリシー

教育学部は、「建学の精神」及び本学部の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

１．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、生涯学習過程を生きる人間の存在・成長・目的等に関して多角的に理解し、教育に関する理論及びその応用・実践について修得することを通じて、自他に対する教育力を培うことができること。

２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

◎教育学科のディプロマポリシー

教育学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（教育学）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。
・教育学の専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル
・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル
・教育に関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー
・情報通信技術（ICT)を用いて、教育に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力
・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力
・多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力
・現代社会における教育に関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力
・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ
・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚
・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、教育の専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任
・教育学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること
・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力
・教育の専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進
・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・教育や人間形成についてさまざまな角度から学び、子どもの気持ちを理解できる豊かな人間性と指導力を身につけている。
・深い教育学的人間理解と高い専門性を備えた教授スキルを身につけている。
・小学校・中学校（国語・社会）・高等学校（国語・地理歴史・公民）の教員、学芸員として、または教育学的知見をもった企業人として活躍できる資質・能力を身につけている。

◎教育メディアクリエーション学環のディプロマポリシー（学部レベル）

教育メディアクリエーション学環は、「建学の精神」及び本学環の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

１．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、教育学・児童学・心理学、及び情報通信技術の幅広い領域を横断的に理解し、教育環境で活用される映像、音声、テキスト等による教材・遊具・図書等の教育メディアとそのクリエーションに関する学術知見と表現方法の修得を通じて、時代と社会のニーズに対応した教育メディアを創造できること。

２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

◎教育メディアクリエーション学環のディプロマポリシー（学科レベル）

教育メディアクリエーション学環は、「建学の精神」及び本学環の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（教育メディアクリエーション）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・教育メディアとそのクリエーションの専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・教育メディアとそのクリエーションに関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT）を用いて、教育メディアとそのクリエーションに関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における教育メディアとそのクリエーションに関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、教育メディアとそのクリエーションの専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・教育メディアとそのクリエーションの専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること
・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。
⑥生涯学習力
・教育メディアとそのクリエーションの専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。
⑦健康推進
・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・教育学・児童学・心理学及び情報通信技術に関する分野横断的な知見を活用し、創造的に思考かつ表現できる力を身につけている。
・時代及び社会のニーズに対応した教育メディアを創造し、教育活動を支援・牽引できる実践的スキルを身につけている。
・教育分野及び関連企業等において教育メディアとそのクリエーションの専門家として活躍できる資質・能力を身につけている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 ディプロマポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	鎌倉女子大学
設置者名	学校法人鎌倉女子大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(5)貸借対照表
	https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html
収支計算書又は損益計算書	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(6)収支計算書
	https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html
財産目録	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(4)財産目録
	https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html
事業報告書	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(3)事業報告書
	https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html
監事による監査報告（書）	鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(7)監事の監査報告書
	https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：事業計画書　　対象年度：2026 年度）
公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(2)事業計画書 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html
中長期計画（名称：中期計画　　対象年度：2023 年度～2027 年度）
公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「2.経営・財務に関する情報」＞(1)中期計画 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/financial/index.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「9.大学等の内部質保証に関する情報」 ＞(2)自己点検・評価に関する報告書 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/evaluation/index.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「9.大学等の内部質保証に関する情報」 ＞(3)認証評価の結果についての報告書 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/evaluation/index.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　　家政学部
教育研究上の目的
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(2)教育研究上の目的 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎家政学部の教育目的** 家政学部は、科学的教養と優雅な性情を以って健全な社会と人間の健康で文化的・経済的な生活と生存を総合的にマネジメントできる理論と実践力を培うことによって、生活世界の基層を成す衣・食・住・教育・経済・経営等の多様な分野に貢献する有為な人材の育成に資することを目的とする。 **◎家政保健学科の教育目的** 家政保健学科は、衣・食・住、健康・教育、経済・経営のウェルビーイングを目指し、生活世界の多様な営みについての教育研究を通じて、横断的理解を養い、個人や組織による課題-解決を実践的にマネジメントできる人材を養成することを目的とする。 **◎管理栄養学科の教育目的** 管理栄養学科は、人間の生命と尊厳を尊重し、食と栄養、健康と医療、福祉と教育にわたる分野における健康管理及び栄養教育についての教育研究を通じて、国民の健康生活の維持増進に貢献できる高度な専門性を有する人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(4)3 つのポリシー＞大学 3 つのポリシー＞大学 ディプロマポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎家政学部のディプロマポリシー** 家政学部は、「建学の精神」及び本学部の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。 １．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、健全な社会と人間の健康で文化的・経済的な生活と生存を総合的にマネジメントできる理論と実践力を培い、生活世界の基層を成す衣・食・住・教育・経済・経営等の多様な分野に貢献できること。 ２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。 **◎家政保健学科のディプロマポリシー** 家政保健学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位を修得した学修者に、「学士（家政学）」の学位を授与する。 **１．知識・理解** ・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。 ・人間生活・健康と直接関わる家政学及び保健学の専門的知識を体系的に理解している。 **２．汎用的技能** ①コミュニケーション・スキル ・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。 ②数量的スキル ・人間生活・健康に関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー
・情報通信技術（ICT）を用いて、人間生活・健康に関する情報を収集・分析し、活用することができる。
④外国語運用能力
・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。
⑤論理的思考力
・横断的かつ多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。
⑥課題-解決力
・現代社会における人間生活・健康に関する課題を発見し、実践的な解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力
・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。
②チームワークとリーダーシップ
・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。
③道理の感覚
・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、人間生活・健康に関わる専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。
④社会的責任
・家政学及び保健学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。
⑤審美的なものに自己を差し向けること
・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。
⑥生涯学習力
・人間生活・健康に関わる専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。
⑦健康推進
・健康を意識した生活を心がけるとともに、人間生活の質的向上を目指し、個人と社会のウェルビーイングを実現できる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・生活世界の多様な営みを踏まえながら、ウェルビーイングの向上に資する新たな価値や在り方を追究する力を身につけている。
・個人や組織が直面する諸課題に対して、創造的かつ実践的な解決策を導き出す力を身につけている。
・企業や地域社会等において、または中学校・高等学校の教員（家庭・保健）、小学校・中学校・高等学校の養護教諭として活躍できる資質・能力を身につけている。

◎管理栄養学科のディプロマポリシー

管理栄養学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（栄養学）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。
・食・栄養・健康に関する専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル
・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル
・食・栄養・健康に関する数値やデータを解析し、活用することができる。
③情報リテラシー
・情報通信技術（ICT)を用いて、食・栄養・健康に関する情報を収集・分析し、活用することができる。
④外国語運用能力
・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。
⑤論理的思考力
・科学的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。
⑥課題-解決力
・現代社会における食・栄養・健康に関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力
・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。
②チームワークとリーダーシップ
・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。
③道理の感覚
・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、健康管理や栄養教育の専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。
④社会的責任
・食・栄養・健康の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。
⑤審美的なものに自己を差し向けること
・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。
⑥生涯学習力
・健康管理や栄養教育の専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。
⑦健康推進
・健康を意識した生活を心がけるとともに、人間の生命と尊厳を尊重し、国民のニーズに対応した健康生活の維持増進に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・健康管理、給食管理等、総合的な栄養マネジメントができる力を身につけている。
・傷病者及び健常者の栄養評価・判定に基づく適切な指導を行うことができるとともに、施設における給食及び栄養管理の知識・技能を活用できる力を身につけている。
・医療・福祉・教育等の分野で管理栄養士として活躍できる資質・能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法）

鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」
＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 カリキュラムポリシー
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html

（概要）

◎家政学部のカリキュラムポリシー

家政学部は、ディプロマポリシーを達成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』及び『専門教育科目』を統合的に学修することにより、学修者が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識・技能を修得することができるカリキュラムの編成。
２．『リベラルアーツスタディーズ』と『プロフェッショナルスタディーズ』の縦軸と、『免許・資格

プログラム』と『企業学習プログラム』の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学修者が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を確保できるカリキュラムの編成。

３．生活世界の基層を成す衣・食・住・教育・経済・経営等に関する横断的かつ多角的な理解に基づき、健全な社会と人間の健康で文化的・経済的な生活と生存を総合的にマネジメントできる理論と実践力を養うカリキュラムの編成。

◎家政保健学科のカリキュラムポリシー

家政保健学科は、ディプロマポリシーに定める深い教養と高い専門性に富む学士力を形成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』においては、8分野で構成され、各分野に選択必修科目を設け、幅広い知識と豊かな教養を養う。

２．『専門教育科目』においては、家政学及び保健学の幅広い領域に関する科目を、「生活環境デザイン」「生活経営情報」「フードビジネス・マネジメント」「教育健康福祉」の4つのキーワードに準じて体系的に配置し、人間生活・健康に関する専門的知識・技能を身につけ、実践的にマネジメントすることができる能力を養う。

３．講義に加え、演習、実験及び実習等の授業方法を組み合わせることにより、人間生活・健康に関する諸課題を解決する実践力を養う。

４．初年次教育として、必修科目「スタートアップセミナー」を置き、大学での学修を円滑に進めるため、アカデミックスキルを育成する。

５．1年次に、必修科目「家政学」「保健学」「生活経営学（家庭経済学を含む）」「家族関係学」を置き、家政保健学科での学修に必要な基礎的知識・技能を養う。

６．2年次以降に、必修科目「キャリアデザイン実践①」「キャリアデザイン実践②」を置くとともに、専門的知識の応用・各論に関する科目を置き、汎用的技能を高め、社会で活動するための資質・能力を養う。

７．3年次及び4年次に、必修科目「家政保健学総合研究」を置き、2年間継続的に学修・研究することで、専門性を深める。

８．3年次及び4年次に、学外での実習等の体験的な活動を行うことにより、さらなる専門的知識・技能の統合を図り、実践力を養う。

９．『免許・資格プログラム』においては、中学校・高等学校教諭1種免許状（家庭・保健）及び養護教諭1種免許状、准学校心理士、第1種衛生管理者、フードスペシャリスト等の免許・資格を取得する上で必要な科目を含む幅広い関連科目を置き、専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる資質・能力を養う。

10．『企業学習プログラム』においては、家政学及び保健学と企業学習の接点を見出すことができる汎用的な科目を置き、専門的知識・技能を活用して企業等で活躍できる資質・能力を養う。

◎管理栄養学科のカリキュラムポリシー

管理栄養学科は、ディプロマポリシーに定める深い教養と高い専門性に富む学士力を形成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』においては、8分野で構成され、各分野に選択必修科目を設け、幅広い知識と豊かな教養を養う。

２．『専門教育科目』においては、管理栄養士、また栄養教諭の養成を目的として科目を系統的に配置し、食生活を通して疾病を予防・治療し、健康を維持増進したいという国民的課題に応え得る資質・能力を養う。

３．講義・演習と併行し、実験・実習を行うことで、専門的知識を深めると同時に実践力を養う。

４．初年次教育として、必修科目「スタートアップセミナー」を置き、大学での学修を円滑に進めるため、アカデミックスキルを育成する。

５．1年次に、化学、生物学、生化学、解剖生理学、基礎栄養学等に関する必修科目を置き、管理栄養学

科での学修に必要な基礎的知識・技能を養う。
６．2年次以降に、必修科目「キャリアデザイン実践」を置くとともに、応用栄養学、臨床栄養学、給食経営管理等に関する必修科目を置き、専門的知識・技能を養う。
７．3年次及び4年次に、必修科目「管理栄養学総合研究」を置き、2年間継続的に学修・研究することで、専門性を深める。
８．3年次及び4年次に、管理栄養士の実践活動の場である病院等において臨地・校外実習を行うことにより、さらなる専門的知識・技能の統合を図り、実践力を養う。
９．『免許・資格プログラム』においては、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生監視員、食品衛生管理者、栄養教諭1種免許状、フードスペシャリスト等の免許・資格を取得する上で必要な科目を含む幅広い関連科目を置き、専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる資質・能力を養う。
10．『企業学習プログラム』においては、食・栄養・健康と企業学習の接点を見出すことができる汎用的な科目を置き、専門的知識・技能を活用して食・栄養・健康関連企業等で活躍できる資質・能力を養う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法）

鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」
＞(4)3 つのポリシー＞大学 3 つのポリシー＞大学 アドミッションポリシー
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html

（概要）

◎家政学部のアドミッションポリシー

家政学部は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。

１．建学の精神と本学の教育の伝統を尊重し、倫理性に基づく目的意識を形成しつつある人。
２．健全な社会と人間の健康で文化的・経済的な生活と生存健康で文化的な人間の生存、健全で多様性に富む生活世界に対する強い関心を抱き、家政学に関する専門的知識・技能を意欲と努力をもって学びとろうとする人。
３．それぞれの学科で修めた学びの成果を活かして、グローバル化されていく生活世界全体の質の向上を目指して、自らの生きる地域・社会に貢献しようとグローカルに思考し、行動できる人。

◎家政保健学科のアドミッションポリシー

家政保健学科は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。

１．高等学校卒業相当の基礎学力を有する人。
２．高等学校までの履修内容のうち、「国語」及び「英語」を通して、読む、書く、聞く、話すという基礎的な知識・技能を有する人。また、「家庭」を通して、人間生活・健康に関する諸課題について学ぶための、基礎的な知識・技能を有する人。
３．ものごとを論理的に思考・判断し、自分の考えを文章や口頭で適切に表現することができる人。
４．衣・食・住、健康・教育、経済・経営のウェルビーイングに関心があり、人間生活・健康に関する諸問題を探究できる人。
５．多様な人々と主体的に関わり、コミュニケーションを取りながら協働して学修に取り組む意欲のある人。
６．企業や地域社会等において、または中学校・高等学校の教員（家庭・保健）、小学校・中学校・高等学校の養護教諭として活躍しようとする明確な目的意識があり、主体的に社会に貢献する意欲のある人。

◎管理栄養学科のアドミッションポリシー

管理栄養学科は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。

１．高等学校卒業相当の基礎学力を有する人。

２．高等学校までの履修内容のうち、「国語」及び「英語」を通して、読む、書く、聞く、話すという基礎的な知識・技能を有する人。また、「理科」を通して、食・栄養・健康について学ぶための、基礎的な知識・技能を有する人。
３．ものごとを論理的に思考・判断し、自分の考えを文章や口頭で適切に表現することができる人。
４．自然科学及び食と健康に関わる分野に関心があり、食・栄養・健康に関する諸問題を探究できる人。
５．多様な人々と主体的に関わり、コミュニケーションを取りながら協働して学修に取り組む意欲のある人。
６．人間の生命を預かる強い自覚を有するとともに、健康・医療・福祉・教育等の分野で管理栄養士として活躍しようとする明確な目的意識があり、主体的に社会に貢献する意欲のある人。

学部等名　　児童学部
教育研究上の目的
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(2)教育研究上の目的 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎児童学部の教育目的** 児童学部は、科学的教養と優雅な性情を以って自然的・社会的・文化的環境に身をおく児童の生活・発達・教育・心理・活動等に関する学問的理解を推進するとともに、その知情意にわたる調和的育成を目指す教育研究を展開し、教育・心理・児童福祉等の分野における有為な人材の育成に資することを目的とする。 **◎児童学科の教育目的** 児童学科は、教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化に関する総合的な教育研究を通じて、児童の育成支援に資する知見と方法、時代や社会のニーズに対応できる高度な実践力を備えた人材を養成することを目的とする。 **◎子ども心理学科の教育目的** 子ども心理学科は、「児童の権利に関する条約」に規定された18歳未満の子どもの心・行動・成長を心理学の観点から理解し、その援助方法についての教育研究を通じて、子どもの心の問題を臨床的側面から援助できる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 ディプロマポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html **◎児童学部のディプロマポリシー** 児童学部は、「建学の精神」及び本学部の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。 １．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、自然的・社会的・文化的環境の中に成立する児童の生活・発達・教育・心理・活動等を学問的に理解し、児童の知情意にわたる調和的な育成を支援できること。 ２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。 **◎児童学科のディプロマポリシー** 児童学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（児童学）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・児童の全体像及び教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化等、児童学の専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・児童の教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化に関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT）を用いて、児童の教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における児童を取り巻く課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、児童に関わる専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・児童学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・児童に関わる専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持増進に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・児童学全般に関わる専門的知見を児童の育成支援に統合的に活用できる力を身につけている。

・急速に変化する現代社会の中で、次世代を育成していく実践的スキルを身につけている。

・保育士、幼稚園・小学校の教員として、または児童関連企業において活躍できる資質・能力を身につけている。

◎子ども心理学科のディプロマポリシー

子ども心理学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（心理学）」

の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・子どもの心・行動・成長及び心理学に関する専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・心理学的研究法により数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT)を用いて、子どもの心・行動・成長に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・心理学的な視点から、ものごとを論理的、分析的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における子どもの心に関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、子どもの心の専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・子どもの心・行動・成長及び心理学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・子どもの心の専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・心理学に関する基礎的理論と研究方法を応用して研究を推進できる力とともに、心理学的援助を実践できる力を身につけている。

・乳幼児期から青年期までの子どもの発達を支援できる知識と援助技法を身につけている。

・教育・健康福祉・医療関連分野及び関連企業等において子どもの心の専門家として活躍できる資質・能力を身につけている。

（公表方法）

鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」

＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 カリキュラムポリシー

https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html
（概要）

◎児童学部のカリキュラムポリシー

児童学部は、ディプロマポリシーを達成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』及び『専門教育科目』を統合的に学修することにより、学修者が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識・技能を修得することができるカリキュラムの編成。

２．『リベラルアーツスタディーズ』と『プロフェッショナルスタディーズ』の縦軸と、『免許・資格プログラム』と『企業学習プログラム』の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学修者が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を確保できるカリキュラムの編成。

３．児童と児童を取り巻く家庭・地域・学校・社会にわたる高度の理解に基づき、児童の知情意にわたる調和的な育成を支援できる応用力・対応力を養うカリキュラムの編成。

◎児童学科のカリキュラムポリシー

児童学科は、ディプロマポリシーに定める深い教養と高い専門性に富む学士力を形成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』においては、8分野で構成され、各分野に選択必修科目を設け、幅広い知識と豊かな教養を養う。

２．『専門教育科目』においては、教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化の各専門分野に関する科目を、「初等教育」「児童福祉」「児童発達臨床」「表現文化」「子どもと健康」の5つの学びのキーワードに準じて総合的に配置し、児童が望ましい発達・成長を遂げることを援助するための理論と実践を様々な観点から理解する。

３．講義に加え、演習、実習等の授業方法を組み合わせることにより、身体的・芸術的・言語的表現力を高め、教育・保育の現場で通用する実践力を養う。

４．初年次教育として、必修科目「スタートアップセミナー」を置き、大学での学修を円滑に進めるため、アカデミックスキルを育成する。

５．1年次に、必修科目「児童学」「教育原理」「子ども家庭福祉」「発達心理学」「子どもの保健」「児童文化①」を置き、児童学科での学修に必要な基礎的知識・技能を養う。

６．2年次以降に、児童学全般を幅広く学べる科目を多数置き、身につけたい専門性を意識して、専門的知識・技能を養う。

７．3年次及び4年次に、必修科目「児童学総合研究」を置き、2年間継続的に学修・研究することで、専門性を深める。

８．3年次及び4年次に、学外での実習等の体験的な活動を行うことにより、さらなる専門的知識・技能の統合を図り、実践力を養う。

９．『免許・資格プログラム』においては、小学校教諭1種免許状、幼稚園教諭1種免許状、特別支援学校教諭1種免許状、保育士、准学校心理士、児童厚生1級指導員、認定絵本士、レクリエーション・インストラクター等の免許・資格の取得を目指す上で必要な科目を含む幅広い関連科目を置き、専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる資質・能力を養う。

10．『企業学習プログラム』においては、児童学と企業学習の接点を見出すことができる汎用的な科目を置き、専門的知識・技能を活用して児童関連企業等で活躍できる資質・能力を養う。

◎子ども心理学科のカリキュラムポリシー

子ども心理学科は、ディプロマポリシーに定める深い教養と高い専門性に富む学士力を形成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』においては、8分野で構成され、各分野に選択必修科目を設け、幅広い知識と豊かな教養を養う。

２．『専門教育科目』においては、基礎的及び応用的分野にわたる心理学の専門的諸科学に関する科目を系統的に配置し、子どもの心理、行動、存在、その背景としての子どもが生きる生活世界及び文

化環境の科学的理解を深める。
３．文献研究、実験研究、調査研究などの研究方法を学修することにより、子どもの成長を支援し得る実践力を養う。
４．初年次教育として、必修科目「スタートアップセミナー」を置き、大学での学修を円滑に進めるため、アカデミックスキルを育成する。
５．1年次に、必修科目「児童学」「教育・学校心理学」「発達心理学①」「心理学概論」「心理学研究法」を置き、子ども心理学科での学修に必要な基礎的知識・技能を養う。
６．2年次に、必修科目「心理学実験」「心理検査法実習」「心理学統計法①」「臨床心理学概論」を置き、文献研究、実験研究、調査研究などの専門的知識・技能を養う。
７．3年次及び4年次に、必修科目「子ども心理学総合研究」を置き、2年間継続的に学修・研究することで、専門性を深める。
８．3年次に、学外での実習等の体験的な活動を行うことにより、さらなる専門的知識・技能の統合を図り、実践力を養う。
９．『免許・資格プログラム』においては、公認心理師、認定心理士、准学校心理士、認定ムーブメント教育・療法中級指導者等の免許・資格の取得を目指す上で必要な科目を含む幅広い関連科目を置き、専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる資質・能力を養う。
10．『企業学習プログラム』においては、子ども心理学と企業学習の接点を見出すことができる汎用的な科目を置き、専門的知識・技能を活用して子ども関連企業等で活躍できる資質・能力を養う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法）
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」
＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 アドミッションポリシー
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html
（概要）
◎児童学部のアドミッションポリシー
児童学部は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。
１．建学の精神と本学の教育の伝統を尊重し、倫理性に基づく目的意識を形成しつつある人。
２．児童が生きる生活世界及び文化環境等に対する強い関心を抱き、グローバル化する時代を認識しつつ、児童学に関する専門的知識・技能を身につけるべく努力を惜しまない人。
３．児童の成長を心と身体の両面から支え得る可能性を備え、児童の指導・相談・援助等の活動に貢献しようとする意欲のある人。
◎児童学科のアドミッションポリシー
児童学科は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。
１．高等学校卒業相当の基礎学力を有する人。
２．高等学校までの履修内容のうち、「国語」及び「英語」を通して、読む、書く、聞く、話すという基礎的な知識・技能を有する人。また、「保健体育」及び「芸術」を通して、教育・保育・表現文化等について学ぶための、基礎的な知識・技能を有する人。
３．ものごとを論理的に思考・判断し、自分の考えを文章や口頭で適切に表現することができる人。また、体育・芸術等の分野において心身ともに豊かに表現できる力を有する人。
４．児童の教育・保育に関心があり、児童を取り巻く諸問題を探究できる人。
５．多様な人々と主体的に関わり、コミュニケーションを取りながら協働して学修に取り組む意欲のある人。
６．保育士、幼稚園・小学校の教員として、または児童関連企業等において活躍しようとする明確な目的意識があり、主体的に社会に貢献する意欲のある人。

◎子ども心理学科のアドミッションポリシー

子ども心理学科は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。

１．高等学校卒業相当の基礎学力を有する人。

２．高等学校までの履修内容のうち、「国語」及び「英語」を通して、読む、書く、聞く、話すという基礎的な知識・技能を有する人。

３．文献を読解・要約するとともに、グラフや表等を活用してものごとを論理的に思考・判断し、自分の考えを文章や口頭で適切に表現することができる人。

４．子どもの心・行動・成長及び心理学に関心があり、子どもの心に関する諸問題を探究できる人。

５．多様な人々と主体的に関わり、コミュニケーションを取りながら協働して学修に取り組む意欲のある人。

６．教育・健康福祉・医療関連分野及び関連企業等において子どもの心の専門家として活躍しようとする明確な目的意識があり、主体的に社会に貢献する意欲のある人。

学部等名　　教育学部
教育研究上の目的
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(2)教育研究上の目的 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎教育学部の教育目的** 教育学部は、科学的教養と優雅な性情を以って生涯学習過程を生きる人間の存在・成長・目的等に関する多角的理解を推進するとともに、教育に関する理論及びその応用・実践についての教育研究を行うことを通じて、自他に対する教育力を培い、教育・文化等の分野における有為な人材の育成に資することを目的とする。 **◎教育学科の教育目的** 教育学科は、わが国の伝統や文化を尊重し、異文化が育む多様な価値への尊敬と間文化論的理解を基礎とし、教育に関する理論及びその応用・実践についての教育研究を通じて、深い教育学的人間理解と専門性の高い教授スキルを兼ね備えた人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 ディプロマポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎教育学部のディプロマポリシー** 教育学部は、「建学の精神」及び本学部の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。 １．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、生涯学習過程を生きる人間の存在・成長・目的等に関して多角的に理解し、教育に関する理論及びその応用・実践について修得することを通じて、自他に対する教育力を培うことができること。 ２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

◎教育学科のディプロマポリシー

教育学科は、「建学の精神」及び本学科の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（教育学）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・教育学の専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・教育に関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT）を用いて、教育に関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における教育に関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、教育の専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・教育学の専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・教育の専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・教育や人間形成についてさまざまな角度から学び、子どもの気持ちを理解できる豊かな人間性と指導力を身につけている。

・深い教育学的人間理解と高い専門性を備えた教授スキルを身につけている。

・小学校・中学校（国語・社会）・高等学校（国語・地理歴史・公民）の教員、学芸員として、または教育学的知見をもった企業人として活躍できる資質・能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 カリキュラムポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎教育学部のカリキュラムポリシー** 教育学部は、ディプロマポリシーを達成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。 １．『総合教育科目』及び『専門教育科目』を統合的に学修することにより、学修者が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識・技能を修得することができるカリキュラムの編成。 ２．『リベラルアーツスタディーズ』と『プロフェッショナルスタディーズ』の縦軸と、『免許・資格プログラム』と『企業学習プログラム』の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学修者が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を確保できるカリキュラムの編成。 ３．生涯学習過程を生きる人間の存在・成長・目的等に関する多角的理解に基づき、広い教養に裏づけられた教育学的識見と高い専門性を備えた教授スキルを養うカリキュラムの編成。 **◎教育学科のカリキュラムポリシー** 教育学科は、ディプロマポリシーに定める深い教養と高い専門性に富む学士力を形成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。 １．『総合教育科目』においては、8分野で構成され、各分野に選択必修科目を設け、幅広い知識と豊かな教養を養う。 ２．『専門教育科目』においては、教育に関する理論及びその応用・実践についての科目を学修段階に応じて系統的に配置し、深い教育学的人間理解及び高い専門性を備えた教授スキルを身につける。 ３．理論と実践、講義と演習・実習等、多岐にわたる授業方法を組み合わせることにより、学校現場の課題とニーズを踏まえた実践的な指導力を養う。 ４．初年次教育として、必修科目「スタートアップセミナー」「基礎演習」を置き、大学での学修を円滑に進めるため、アカデミックスキルを育成する。 ５．1年次に、必修科目「教育学」を置き、教育学科での学修に必要な基礎的知識・技能を養う。 ６．2年次以降に、教育に関する理論や方法論、支援方法等の科目を置き、専門的知識・技能を養う。 ７．3年次及び4年次に、必修科目「教育学総合研究」を置き、2年間継続的に学修・研究することで、専門性を深める。 ８．4年次に、学外での実習等の体験的な活動を行うことにより、さらなる専門的知識・技能の統合を図り、実践力を養う。 ９．『免許・資格プログラム』においては、小学校教諭1種免許状、中学校教諭1種免許状(国語・社会)、高等学校教諭1種免許状(国語・地理歴史・公民)、学芸員、司書教諭、准学校心理士等の免許・資格を取得する上で必要な科目を含む幅広い関連科目を置き、専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる資質・能力を養う。 10. 『企業学習プログラム』においては、教育学と企業学習の接点を見出すことができる汎用的な科目を置き、専門的知識・技能を活用して教育関連企業等で活躍できる資質・能力を養う。
入学者の受入れに関する方針
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 アドミッションポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎教育学部のアドミッションポリシー**

教育学部は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。

１．建学の精神と本学の教育の伝統を尊重し、倫理性に基づく目的意識を形成しつつある人。
２．教職に対する強い関心を抱き、グローバル化する時代を認識しつつ、幅広い領域にわたる学問分野にあって、自ら進んで教育学に関する専門的知識・技能を学びとろうとする人。
３．人間性豊かな性情を子どもたちに分かち与え得る可能性を備え、教育界及び広く社会の教育活動に貢献しようとする意欲のある人。

◎教育学科のアドミッションポリシー

教育学科は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。

１．高等学校卒業相当の基礎学力を有する人。
２．高等学校までの履修内容のうち、「国語」及び「英語」を通して、読む、書く、聞く、話すという基礎的な知識・技能を有する人。
３．ものごとを論理的に思考・判断し、自分の考えを文章や口頭で適切に表現することができる人。
４．教育や人間形成に関心があり、教育に関する諸問題を探究できる人。
５．多様な人々と主体的に関わり、コミュニケーションを取りながら協働して学修に取り組む意欲のある人。
６．人間の成長を積極的に支援しようとする情熱を有するとともに、小学校・中学校（国語・社会）・高等学校（国語・地理歴史・公民）の教員、学芸員及び教育学的知見をもった企業人等として活躍しようとする明確な目的意識があり、主体的に社会に貢献する意欲のある人。

学部等名　　教育メディアクリエーション学環
教育研究上の目的
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(2)教育研究上の目的 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要） **◎教育メディアクリエーション学環の教育目的**（学部レベル） 教育メディアクリエーション学環は、教育学・児童学・心理学、そして情報通信技術の幅広い領域における横断的理解を基礎とし、教育環境で活用される映像、音声、テキスト等による教材・遊具・図書等の教育メディアとそのクリエーションに関する学術知見と表現方法についての教育研究を通じて、教育やメディア制作等の分野における有為な人材の育成に資することを目的とする。 **◎教育メディアクリエーション学環の教育目的**（学科レベル） 教育メディアクリエーション学環は、教育メディアが著しく変質する時代と社会のニーズに対応した教育メディアを科学的教養と優雅な性情を以って創造し、教育活動を支援・牽引することは元より、新しい学びの手法・学びの教材・学びの世界の可能性を開くことのできる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法） 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」 ＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 ディプロマポリシー https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html （概要）

◎教育メディアクリエーション学環のディプロマポリシー（学部レベル）

教育メディアクリエーション学環は、「建学の精神」及び本学環の教育目的に基づき、以下のように学位授与の要件を定める。

１．「科学的教養の向上と優雅な性情の涵養」を図り、教育学・児童学・心理学、及び情報通信技術の幅広い領域を横断的に理解し、教育環境で活用される映像、音声、テキスト等による教材・遊具・図書等の教育メディアとそのクリエーションに関する学術知見と表現方法の修得を通じて、時代と社会のニーズに対応した教育メディアを創造できること。

２．所定の期間在学し、所定の単位を修得していること。

◎教育メディアクリエーション学環のディプロマポリシー（学科レベル）

教育メディアクリエーション学環は、「建学の精神」及び本学環の教育目的に基づき、所定の期間在学し、以下に示す深い教養と高い専門性に富む学士力を身につけ、所定の単位数を修得した学修者に、「学士（教育メディアクリエーション）」の学位を授与する。

１．知識・理解

・人間・社会・文化・歴史・自然・健康・生活について、幅広い知識と豊かな教養を身につけている。

・教育メディアとそのクリエーションの専門的知識を体系的に理解している。

２．汎用的技能

①コミュニケーション・スキル

・他者の意見や考えを理解するとともに、自分自身の意見や考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

②数量的スキル

・教育メディアとそのクリエーションに関する数値やデータを分析・理解し、活用することができる。

③情報リテラシー

・情報通信技術（ICT）を用いて、教育メディアとそのクリエーションに関する情報を収集・分析し、活用することができる。

④外国語運用能力

・特定の外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる。

⑤論理的思考力

・多角的な視点から、ものごとを論理的に思考し、表現することができる。

⑥課題-解決力

・現代社会における教育メディアとそのクリエーションに関する課題を発見し、解決を図ることができる。

３．態度・志向性

①自己管理力

・自らを律し、主体的、計画的に行動できるとともに、自立した女性としてライフキャリアを描くことができる。

②チームワークとリーダーシップ

・組織の中で、他者と協調・協働して物事に取り組むことができるとともに、目標実現のための方向に導くことができる。

③道理の感覚

・社会のマナーやモラルに対する感覚を磨き、教育メディアとそのクリエーションの専門家として求められる高い倫理観を備え、自らを律して行動することができる。

④社会的責任

・教育メディアとそのクリエーションの専門的知識・技能等を活用して、地域や社会に貢献することができる。

⑤審美的なものに自己を差し向けること

・美しいもの善いものに目を向け、その価値に憧れを抱く素直な態度を身につけている。

⑥生涯学習力

・教育メディアとそのクリエーションの専門家として生涯を通じて学び続けられる自学自習の習慣を身につけている。

⑦健康推進

・健康を意識した生活を心がけるとともに、子どもの心と身体の発達や健康維持に貢献することができる。

４．統合的な学修経験と創造的思考力

・教育学・児童学・心理学及び情報通信技術に関する分野横断的な知見を活用し、創造的に思考かつ表現できる力を身につけている。

・時代及び社会のニーズに対応した教育メディアを創造し、教育活動を支援・牽引できる実践的スキルを身につけている。

・教育分野及び関連企業等において教育メディアとそのクリエーションの専門家として活躍できる資質・能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法）

鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」
＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 カリキュラムポリシー
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html

（概要）

◎教育メディアクリエーション学環のカリキュラムポリシー（学部レベル）

教育メディアクリエーション学環は、ディプロマポリシーを達成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』及び『専門教育科目』を統合的に学修することにより、学修者が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識・技能を修得することができるカリキュラムの編成。

２．『リベラルアーツスタディーズ』と『プロフェッショナルスタディーズ』の縦軸と、『免許・資格プログラム』と『企業学習プログラム』の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学修者が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を確保できるカリキュラムの編成。

３．教育学・児童学・心理学、及び情報通信技術に関する横断的な理解に基づき、教育メディアを創造する力を養うカリキュラムの編成。

◎教育メディアクリエーション学環のカリキュラムポリシー（学科レベル）

教育メディアクリエーション学環は、ディプロマポリシーに定める深い教養と高い専門性に富む学士力を形成するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

１．『総合教育科目』においては、8分野で構成され、各分野に選択必修科目を設け、幅広い知識と豊かな教養を養う。

２．『専門教育科目』においては、「教育メディアクリエーション」「児童学」「心理学」「教育学」の4つの領域に関する科目を配置し、特に教育環境で活用される教育メディアとそのクリエーションに関する高度な専門的スキルを身につける。

３．理論と実践、講義と演習・実習等、多岐にわたる授業方法を組み合わせることにより、教育現場や関連企業等で活用できる実践力を養う。

４．初年次教育として、必修科目「スタートアップセミナー」を置き、大学での学修を円滑に進めるため、アカデミックスキルを育成する。

５．1年次に、必修科目「教育メディア概論」「Webデザイン基礎」「創作と表現基礎」を置き、教育メディアクリエーション学環での学修に必要な基礎的知識・技能を養う。

６．2年次以降に、必修科目「クリエーションスキルA」「クリエーションスキルB」「教育メディアクリエーション基礎研究①」「教育メディアクリエーション基礎研究②」「メディアリテラシー」等の

科目を置き、専門的知識・技能を養う。
７．3年次及び4年次に、必修科目「教育メディアクリエーション総合研究」を置き、2年間継続的に学修・研究することで、専門性を深めるとともに、4年次に、必修科目「卒業研究」を置き、統合的な学修経験を実践的に活用して創造的思考力を修得する。
８．3年次に、「教育メディアクリエーションインターンシップ」、4年次に、学外での実習等の体験的な活動を行うことにより、さらなる専門的知識・技能の統合を図り、実践力を養う。
９．『免許・資格プログラム』においては、学芸員等の免許・資格を取得する上で必要な科目を含む幅広い関連科目を置き、専門的知識・技能を活用して社会に貢献できる資質・能力を養う。
10．『企業学習プログラム』においては、教育メディアクリエーションと企業学習の接点を見出すことができる汎用的な科目を置き、専門的知識・技能を活用して教育関連企業等で活躍できる資質・能力を養う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法）
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」
＞(4)3つのポリシー＞大学 3つのポリシー＞大学 アドミッションポリシー
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html
（概要）
◎教育メディアクリエーション学環のアドミッションポリシー（学部レベル）
教育メディアクリエーション学環は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。
１．建学の精神と本学の教育の伝統を尊重し、倫理性に基づく目的意識を形成しつつある人。
２．教育環境で活用される教育メディアとそのクリエーションに対する強い関心を抱き、グローバル化する時代を認識しつつ、幅広い領域にわたる学問分野にあって、自ら進んで教育メディアクリエーションに関する専門的知識・技能を学びとろうとする人。
３．時代と社会のニーズに対応した教育メディアを創造し、教育界及び広く社会の教育活動に貢献しようとする意欲のある人。

◎教育メディアクリエーション学環のアドミッションポリシー（学科レベル）
教育メディアクリエーション学環は、ディプロマポリシーに定める人材を育成するため、修学意欲のある以下のような学生を求める。
１．高等学校卒業相当の基礎学力を有する人。
２．高等学校までの履修内容のうち、「国語」及び「英語」を通して、読む、書く、聞く、話すという基礎的な知識・技能を有する人。また、「情報」及び「芸術」を通して、教育メディアクリエーションについて学ぶための、基礎的な知識・技能を有する人。
３．ものごとを論理的に思考・判断し、自分の考えを文章や口頭で適切に表現することができる人。また、芸術等の分野において心身ともに豊かに表現できる力を有する人。
４．教育メディアクリエーションに関心があり、教育やメディア制作に関する諸問題を探究できる人。
５．多様な人々と主体的に関わり、コミュニケーションを取りながら協働して学修に取り組む意欲のある人。
６．教育分野及び関連企業等において教育メディアクリエーションの専門家として活躍しようとする明確な目的意識があり、主体的に社会に貢献する意欲のある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：
鎌倉女子大学ホームページ 大学院・学部・学科
https://www.kamakura-u.ac.jp/faculty/index.html
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「1.基本情報」＞(5)法人組織
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/basic_info/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	2 人			—			2 人
家政学部	－	14 人	15 人	6 人	0 人	9 人	44 人
児童学部	－	13 人	8 人	10 人	0 人	0 人	31 人
教育学部	－	10 人	7 人	3 人	0 人	0 人	20 人
教育メディアクリエーション学環	－	1 人	0 人	2 人	0 人	0 人	3 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	52 人	52 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「5.大学等の教員に関する情報」＞(3)教員の学位・業績 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/teacher/index.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

・教育方法・内容の改善を進めるための全学的な組織として、「FD委員会」を設置している。
・「FD委員会」が中心となり、「授業改善アンケート」「ピアレビュー（授業情報交換会）」「授業コンサルティング」「FDセミナー」「新任教員研修」等の実施、「ニュースレター」の発刊を行い、教員の資質・能力の向上に努めている。
・授業改善アンケートについては、専任教員及び春・秋両セメスターの授業科目を担当している非常勤講師を対象としており、対象者は春セメスターまたは秋セメスターの担当科目から1科目(1コマ)以上を選択し、授業の中盤（6～7週目）及び終盤（12～14週目）に計2回アンケートを実施している。
・1回目のアンケート結果は各教員に即時にフィードバックされ、教員は学生の意見をもとにセメスター後半における授業方法の見直しを行っている。
・2回目のアンケート結果も各教員にフィードバックされ、教員は1回目のアンケート結果と比較して自身の授業改善が有効であったか検証するとともに、次年度に向けた更なる授業改善を検討して「アンケート分析と評価」に記入し、「FD委員会」に提出している。
・授業改善アンケートの集計結果については、ホームページにおいて 3 か年度分を公開している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
家政学部	200 人	226 人	113.0%	800 人	921 人	115.1%	0 人	2 人
児童学部	200 人	214 人	107.0%	860 人	887 人	103.1%	0 人	7 人
教育学部	70 人	84 人	120.0%	345 人	332 人	96.2%	10 人	6 人
教育メディアクリエーション学環	35 人	27 人	77.1%	35 人	27 人	77.1%	0 人	0 人
合計	505 人	551 人	109.1%	2,040 人	2,167 人	106.2%	10 人	15 人

（備考）
学部等連係課程 教育メディアクリエーション学環（2026年度開設）の入学定員及び収容定員は、連係協力学部である児童学部及び教育学部の定員の一部を活用している。2026年度に当該学環で活用する定員の内訳は以下のとおりである。
・児童学部の入学定員220人の内20人／収容定員880人の内20人
・教育学部の入学定員80人の内10人、編入学定員20人の内5人／収容定員360人の内15人
なお、本表では、当該学環については上記定員を計上し、連係協力学部については当該分を除いて記載している。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
家政学部	246人 (100%)	4人 (1.6%)	237人 (96.4%)	5人 (2.0%)
児童学部	237人 (100%)	6人 (2.5%)	227人 (95.8%)	4人 (1.7%)
教育学部	110人 (100%)	1人 (0.9%)	102人 (92.7%)	7人 (6.4%)
合計	593人 (100%)	11人 (1.9%)	566人 (95.4%)	16人 (2.7%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

家政学部家政保健学科

進学先	日本女子大学通信教育課程
学校	[公立] 〔家庭科教諭〕 神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／東京都教育委員会／埼玉県教育委員会 〔養護教諭〕 北海道教育委員会／東京都教育委員会／静岡県教育委員会 [私立] 〔家庭科教諭〕 学校法人沼津学園桐陽高等学校 〔養護教諭〕 学校法人鎌倉学園鎌倉学園中学校・高等学校 学校法人鎌倉女子大学鎌倉国際文理中学校・高等学校
企業	パナソニックハウジングソリューションズ株式会社/クリナップ株式会社/株式会社セシール/かながわ信用金庫/横浜信用金庫/平塚信用金庫/横浜農業協同組合/さがみ農業協同組合/日本生命保険相互会社/スターゼン株式会社/株式会社豊島屋/東京電力ホールディングス株式会社/住友電気工業株式会社/オルビス株式会社/株式会社横浜グランドインターコンチネンタルホテル/ウエインズトヨタ神奈川株式会社

公務員	海老名市役所（行政事務職）/箱根町役場（行政事務職）/沼津市役所（行政事務職）
家政学部管理栄養学科	
進学先	早稲田大学大学院人間科学研究科健康生命科学研究領域/東京科学大学大学院環境・社会理工学院社会・人間科学系修士課程/東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻
病院	地方独立行政法人東京都立病院機構/学校法人国際医療福祉大学国際医療福祉大学熱海病院/学校法人杏林学園杏林大学医学部付属病院/ＩＭＳグループ（板橋中央総合病院グループ）/医療法人社団桐和会（タムスグループ）/上尾中央医科グループ/医療法人横浜平成会平成横浜病院/医療法人社団福寿会/医療法人一陽会原田病院/日本赤十字社静岡赤十字病院/日本赤十字社長野赤十字病院/医療法人啓愛会白梅病院/医療法人社団慶晃会南山リハビリテーション病院/医療法人社団厚済会横浜じんせい病院/医療法人社団志仁会三島中央病院/医療法人社団筑波記念会筑波記念病院
企業	高梨乳業株式会社/ブルドックソース株式会社/株式会社山星屋/ジャパンフードサプライ株式会社/株式会社ＡＮＡケータリングサービス/日本調剤株式会社/エームサービス株式会社/日清医療食品株式会社/株式会社ＬＥＯＣ/株式会社グリーンハウス/伊藤忠プラスチックス株式会社/住電通信エンジニアリング株式会社/横浜農業協同組合
保育所・社会福祉施設等	株式会社学研ココファン・ナーサリー/株式会社さくらさくみらい/株式会社日本保育サービス（ＪＰホールディングスグループ）/ライクキッズ株式会社/株式会社こどもの森/社会福祉法人若竹大寿会
公務員	（管理栄養士職・栄養士職系）東京都庁/目黒区役所/大田区役所/相模原市役所/伊東市役所/函南町役場 （行政事務職）厚生労働省/農林水産省
児童学部児童学科	
学校	［公立］ 〔家庭科教諭〕 神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／東京都教育委員会／埼玉県教育委員会 〔養護教諭〕 北海道教育委員会／東京都教育委員会／静岡県教育委員会 ［私立］ 〔家庭科教諭〕 学校法人沼津学園桐陽高等学校 〔養護教諭〕 学校法人鎌倉学園鎌倉学園中学校・高等学校 学校法人鎌倉女子大学鎌倉国際文理中学校・高等学校
幼稚園・ 認定こども園	［公立］ 秦野市／静岡市 ［私立］ 学校法人ともだち江ノ島ともだち幼稚園／学校法人アルコット学園しみずがおか幼稚園／学校法人湘南台学園湘南台幼稚園／三鷹杉の子幼稚園／学校法人鎌倉女子大学鎌倉女子大学幼稚部／学校法人嶂谷学園認定こども園ぎんなん幼稚園／学校法人長友学園幼保連携型認定こども園大沢幼稚園／学校法人湘南やまゆり学園
保育所 社会福祉施設等	［公立］ 川崎市／茅ヶ崎市／小田原市／町田市／大田区／沼津市 ［私立］ 社会福祉法人なぎさ保育園なぎさ保育園／社会福祉法人土と愛土と愛子供の家保育所／社会福祉法人東京児童協会／社会福祉法人若葉会萩原保育園／株式会社日本保育サービス／株式会社ベネッセスタイルケア／京急サービス株式会社
企業	株式会社スタジオアリス/株式会社ＬＩＴＡＬＩＣＯ/エフィラグループ株式会社/株式会社横浜銀行/セキスイハイム東海株式会社/東京ガス横浜中央エネルギー株式会社
児童学部子ども心理学科	
進学先	鎌倉女子大学大学院児童学研究科児童学専攻/帝京大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程/追手門学院大学大学院心理学研究科心理学専攻
学校	［公立］ 〔小学校教諭〕群馬県教育委員会／山梨県教育委員会

	〔特別支援学校教諭〕神奈川県教育委員会／川崎市教育委員会／静岡県教育委員会 〔養護教諭〕神奈川県教育委員会／栃木県教育委員会 ［私立］ 〔養護教諭〕学校法人山崎学園富士見中学校・高等学校
幼稚園・ 認定こども園	［私立］ 宗教法人平塚八幡宮つるみね幼稚園／学校法人みちひろ学園れんげ幼稚園／学校法人岩本学園認定こども園南大野幼稚園／学校法人中島学園認定こども園きそ幼稚園
企業	株式会社ＬＩＴＡＬＩＣＯ/エフィラグループ株式会社/株式会社マミー・インターナショナル/株式会社ステップ/社会福祉法人同愛会川崎市中央療育センター/社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団/社会福祉法人横浜博萌会横浜いずみ学園/社会福祉法人東京都社会福祉事業団/社会福祉法人大龍会/株式会社赤ちゃん本舗/ＡＮＡエアポートサービス株式会社/株式会社スギ薬局/株式会社ポンパドウル
教育学部教育学科	
進学先	千葉大学大学院教育研究科専門職学位課程
学校	［公立］ 〔中学校教諭（国語科）〕神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／川崎市教育委員会／東京都教育委員会 〔中学校教諭（社会科）〕横浜市教育委員会 〔小学校教諭〕神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／川崎市教育委員会／東京都教育委員会／千葉県教育委員会／山梨県教育委員会／新潟市教育委員会／静岡県教育委員会 〔特別支援学校教諭〕神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／東京都教育委員会／長野県教育委員会 ［私立］ 〔小学校教諭〕 学校法人鎌倉女子大学鎌倉女子大学初等部
企業	株式会社明日葉/社会福祉法人東京都社会福祉事業団/三井住友ファイナンス＆リース株式会社/三井住友信託銀行株式会社/株式会社横浜銀行/株式会社ユーミーホールディングス/ウエインズトヨタ神奈川株式会社/日本調剤株式会社/株式会社マツモトキヨシ
（備考） 教育メディアクリエーション学環は 2026 年度開設のため、卒業学年の在籍なし。	

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
家政学部	255人 （100%）	245人 （96.0%）	6人 （2.4%）	4人 （1.6%）	0人 （0.0%）
児童学部	236人 （100%）	222人 （94.1%）	6人 （2.5%）	7人 （3.0%）	1人 （0.4%）
教育学部	98人 （100%）	92人 （93.9%）	4人 （4.1%）	2人 （2.0%）	0人 （0.0%）
合計	589人 （100%）	559人 （95.0%）	16人 （2.7%）	10人 （1.7%）	1人 （0.2%）

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「6.大学等の教育課程に関する情報」
＞(1)授業科目、授業内容、授業計画
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/curriculum/index.html
・「授業科目、授業内容、授業計画」の項目に掲載されている内容は次のとおり。
1)各授業科目の科目ナンバー、カリキュラムチャート
2)各学科のカリキュラム
3)シラバス
4)実務経験を活かした授業

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「6.大学等の教育課程に関する情報」
＞(2)学修成果の評価、卒業・修了認定の基準
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/curriculum/index.html
・「学修成果の評価、卒業・修了認定の基準」に掲載されている内容は次のとおり。
1)成績評価基準、GPA制度、GPAの算出式
2)CAP制（履修単位の登録上限設定）
3)卒業要件単位、取得可能学位

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
家政学部	家政保健学科	124 単位	(有)・無	24 単位×2
	管理栄養学科	124 単位	(有)・無	24 単位×2
児童学部	児童学科	124 単位	(有)・無	24 単位×2
	子ども心理学科	124 単位	(有)・無	24 単位×2
教育学部	教育学科	124 単位	(有)・無	24 単位×2
教育メディアクリエーション学環		124 単位	(有)・無	24 単位×2

ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「6.大学等の教育課程に関する情報」 ＞(2)学修成果の評価、卒業・修了認定の基準＞成績評価基準、GPA制度 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/curriculum/index.html
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法： 鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「10.大学等のIRに関する情報」 (1)学修時間 (2)学生の学修に対する意欲 (3)学生の成長実感 (4)学生の満足度 (5)単位取得状況 (6)学位取得状況 (7)修業年限期間内に卒業する学生の状況 (8)免許資格取得状況、国家試験合格状況 https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/ir/index.html

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開「3.大学等の教育研究上の基本情報」
＞(6)キャンパスの概要、耐震化

https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/education/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

2026年度入学者					
学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考 （任意記載事項）
家政学部	家政保健学科 （1年次）	640,000円	380,000円	521,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：200,000円 実験実習費：186,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円
	家政保健学科 （2年次～4年次）	685,000円	—	565,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：220,000円 実験実習費：210,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円
	管理栄養学科 （1年次）	640,000円	380,000円	541,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：206,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円
	管理栄養学科 （2年次～4年次）	685,000円	—	595,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：230,000円 実験実習費：230,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円
児童学部	児童学科 （2年次～4年次）	685,000円	—	545,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：210,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円
	子ども心理学科 （1年次）	640,000円	380,000円	521,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：200,000円 実験実習費：186,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円
	子ども心理学科 （2年次～4年次）	685,000円	—	565,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：220,000円 実験実習費：210,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料（年間） ：120,000円

教育学部	教育学科 （1年次）	640,000円	380,000円	511,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：196,000円 実験実習費：180,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	教育学科 （2年次～4年次）	685,000円	—	545,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：210,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
教育メディアクリエーション学環（1年次）		640,000円	380,000円	537,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：209,000円 実験実習費：193,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
教育メディアクリエーション学環（2年次～4年次）		685,000円	—	583,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：230,000円 実験実習費：218,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円

2024・2025年度入学者					
学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
家政学部	家政保健学科 （1年次）	640,000円	380,000円	521,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：200,000円 実験実習費：186,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	家政保健学科 （2年次～4年次）	685,000円	—	565,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：220,000円 実験実習費：210,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	管理栄養学科 （1年次）	640,000円	380,000円	541,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：206,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円

	管理栄養学科 （2年次～4年次）	685,000円	―	595,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：230,000円 実験実習費：230,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
児童学部	児童学科 （1年次）	640,000円	380,000円	511,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：196,000円 実験実習費：180,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	児童学科 （2年次～4年次）	685,000円	―	545,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：210,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	子ども心理学科 （1年次）	640,000円	380,000円	521,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：200,000円 実験実習費：186,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	子ども心理学科 （2年次～4年次）	685,000円	―	565,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：220,000円 実験実習費：210,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
教育学部	教育学科 （1年次）	640,000円	380,000円	511,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：196,000円 実験実習費：180,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	教育学科 （2年次～4年次）	685,000円	―	545,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：210,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円

2023年度入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
家政学部	家政保健学科	640,000円	380,000円	521,000円	【その他内訳】 教育環境充実費

					：200,000円 実験実習費：186,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	管理栄養学科	640,000円	380,000円	541,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：206,000円 実験実習費：200,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
児童学部	児童学科	640,000円	380,000円	511,000円	【その他内訳】 教育環境充実費 ：196,000円 実験実習費：180,000円 文化厚生費： 15,000円 休学中の在籍料(年間) ：120,000円
	子ども心理学科				
教育学部	教育学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

◆オフィスアワー制度

・講義や自主学習の中で感じた疑問点を、教員に直接質問できる制度を設けている。
・各教員が週に2時限のオフィスアワーを設定し、学生の質問や相談に対応している。
・全教員が学生の学修意欲を支えている。

◆クラスアドバイザー・ゼミナール担当教員

・全学科全学年にクラスアドバイザーが配置され、授業の選び方や学習の方法、学生生活での悩みなど、学生が抱えるさまざまな問題に対応している。
・3～4 年次には、ゼミナール担当教員が就職センター、教職センターと連携しながら、就職や進学など、卒業後の進路についての相談に応じている。

◆教務部教務課・学務課・免許･資格指導課

・教務部教務課では授業、試験、教科書に関すること等、学務課では履修登録、各種証明書の発行等、免許･資格指導課では各種実習に関すること等を通じて、修学支援を行っている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

◆就職センター

・就職センターでは、1年次からキャリア教育を行い、早期から就業意識を持つように指導している。
・就職講座や模擬試験を開催するほか、就職相談、履歴書やエントリーシートの添削、面接対策（模擬面接など）にも個別に対応している。
・就職カウンセラーと就職センターのスタッフ全員で学生をフォローし、適切なアドバイスやサポートができるような体制を整えている。

◆教職センター

・教職センターでは、教員・保育士をめざす学生を対象に、専門職に特化したサポートを行っている。
・年間を通して、「教員・公立幼保採用試験対策講座」や「公立学校教員採用候補者選考試験説明会」などの講座を開講している。

・入学から卒業後まで、学生一人ひとりの希望や課題を把握し、より質の高い教員・保育士養成を行えるよう、学科教員や他部署との連携を取りながら、きめ細かなサポートを行っている。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

◆学生相談室

・学生相談室では、臨床心理士、公認心理師の資格をもつ相談員によるカウンセリングを行っている。

・将来に向けてさまざまな経験を積み、多感な時期を過ごす学生生活の中で、いろいろな不安や悩みを抱える多くの人に対して、学問、進路、家族、友人関係など、どんな相談にも対応している。

◆保健センター

・保健センターでは、けがや病気に対する応急処置や、学生の健康の保持増進を図ることを目的とし、健康の自己管理とともに主体的に取り組める健康づくりへの支援を行っている。

・充実した学生生活を送るためには、心身ともに健康であることが大切であり、健康上の悩みについて相談できる体制となっている。また、病院の紹介も行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：
鎌倉女子大学ホームページ 情報公開
https://www.kamakura-u.ac.jp/profile/disclosure/index.html

○総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み
「データサイエンス・AI学修プログラム」

「データサイエンス・AI 学修プログラム」として、データサイエンスと AI に対する関心を高め、これらを活用した課題解決能力を修得するための履修モデルの提供を行っている。プログラムの課程履修登録を行い、各レベルの修了要件を満たした場合は「修了証」を発行する。
公表方法：鎌倉女子大学ホームページ 「キャンパスライフ」＞「データサイエンス・AI 学修プログラム」 https://www.kamakura-u.ac.jp/campus_life/dsai/index.html

「データサイエンス・AI学修プログラム」リテラシーレベル（全学部対象）

データサイエンスとAIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を修得するための履修モデル。

学修内容	・データ・Al による社会と日常生活の変化を理解し、データ・Al を活用するための技術・それによって生まれる価値・最新動向などの知識を修得する。 ・データを適切に読み解き、集計と解析を行い、分かりやすく正確に表現するためのスキルを修得する。 ・データ・Alを利用する際のモラル・倫理・リスク・脅威に対する理解を深め、データを守るために留意すべき知識を修得する。
授業科目と修了要件	下記の2科目を履修し、合計4単位を取得することで、リテラシーレベルの修了を認定する。

授業科目	区分	配当年次	単位数
情報リテラシー	総合教育科目-情報科学	1	2
数と統計	総合教育科目-生活と技術	1～3	2

「データサイエンス・AI学修プログラム」応用基礎レベル（家政学部のみ対象）

自らの専門分野において、データサイエンスやAIを活用して課題を解決するための実践的な能力を修得するための履修モデル。

学修内容	・データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解し、分析目的に応じた適切な分析手法、可視化手法を選択するための知識を修得する。また、データ・AIの利活用に必要な数学の基礎と、代表的なアルゴリズムを学ぶ。 ・データを収集・処理・蓄積するための技術の概要と、コンピュータでデータを扱うためのデータ表現に関する知識を修得する。また、データ・AIの利活用に必要なプログラミングの基礎を学ぶ。 ・AIの歴史と活用領域の広がり、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解し、機械学習・深層学習・生成AIの基礎と展望に関する知識を修得する。また、AIの構築・運用を学ぶ。
授業科目と修了要件	下記の6科目を履修し、合計11単位を取得することで、応用基礎レベルの修了を認定する。

授業科目	区分	配当年次	単位数
情報リテラシー	総合教育科目-情報科学	1	2
数と統計	総合教育科目-生活と技術	1～2	2
情報マネジメント	専門教育科目-家政保健学科	2	2
プログラミング	総合教育科目-情報科学	3	1
情報マネジメント演習	専門教育科目-家政保健学科	4	2
消費者調査法	専門教育科目-家政保健学科・管理栄養学科	4	2

※管理栄養学科に所属する学生は、他学科専門教育科目履修による卒業要件単位として、上記の家政保健学科の専門教育科目（2科目4単位）を履修。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F114310104749
学校名（○○大学 等）	鎌倉女子大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人鎌倉女子大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		481人（323）人	472人（315）人	506人（343）人
内訳	第Ⅰ区分	111人	107人	
	（うち多子世帯）	（27人）	（24人）	
	第Ⅱ区分	51人	58人	
	（うち多子世帯）	（12人）	（—人）	
	第Ⅲ区分	47人	37人	
	（うち多子世帯）	（12人）	（—人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	67人	63人	
	区分外（多子世帯）	205人	207人	
家計急変による 支援対象者（年間）				—人（0）人
合計（年間）				506人（343）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	―人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	―人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	―人	人	人
計	―人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	―人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	76人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	―人	人	人
計	76人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。